



岡田生花店  
 ベルポート汐入店  
 営業時間AM10~PM7時  
 水曜定休  
 TEL・FAX 3802-8716

朝晩が涼しく過ごしやすくなってきました。今年も残すところあと4が月になりました。あつという間に秋から冬へ季節が変わっていきます。花も少しづつ夏から秋へと移ってきます。今月は秋に出回るお勧めの花をご紹介します。

★りんどう（竜胆）  
 青・白・ピンク（赤紫）・パステル（白と青の2色）があります。

秋頃に出回るりんどうは夏のりんどうに比べて咲きやすくなります。咲くと言っても花の先端が少し開くだけです。（バラ・百合・菊のように満開に咲くことはありません）

★われもこう（吾亦紅）  
 茶色の細長い玉のようなものです。花というより実に近いものです。色も形も地味ですが秋にしかない花

の一つです。

★コスモス

秋の花で一番最初に思い出す秋の花の代表です。

野原1面み咲くコスモスは本当に綺麗です。鉢物も出回りますが、切花・鉢花ともに多湿を嫌うので



風通しのよいところにおくなどすると長く楽しめます。

9月はお彼岸があります。みなさんはいつからいつまでが秋のお彼岸だと思えますか？

秋のお彼岸は秋分の日を以て前後3日後3日づつ1週間あります。春のお彼岸は春分の日を以て前後3日づつです。

9月の定休日は3・10・17日です。



東京新聞環境キャンペーン「エコイチ」は、わが町東京に焦点をしばって地球温暖化を考える特集

「地球温暖化、東京では？」

でスタートしました。まずは東京の現実を知ることから、あなたの「エコイチ！」をはじめてみませんか？

◇東京の現実を知ろう！

気象庁調査「20世紀の日本の気候」によると、20世紀の日本の年平均気温は、大都市平均で100年あたり2.5度、中小都市平均で1.0度といずれも上昇傾向にあります。さて、東京はというと、なんと年平均で約3.0度も上昇！突出ぶりが目立ちます。

世界に目を向けてみましょう。世界の年平均地上気温（陸域のみ）の上昇は100年あたり0.78度で、大都市ニューヨークでもプラス2度ほどのようです。東京は気温上昇において世界でもっとも深刻な大都市に位置づけられるでしょう。「3.0度」の内訳にも特徴があります。100年間の上昇を1日の最高気温と最低気温で見ると、東京の日最高気温（年平均）はプラス1.7度、日最低気温でプラス3.8度、中小都市に比べ大都市の日最低気温が高いのは、夜間の放射冷却による地表付近の気温の下がり方の差と考えられます。昨夏は熱中症による病院への搬送が全国的に増え、東京23区では救急患者が約900人に達するなど、各地で過去最多を記録しました。

○熱中症の増加

熱中症といえば炎天下での運動を考えがちですが、熱帯夜の増加により、高温多湿で風通しの悪い夜間の室内での水分補給の遅れから、特に高齢者を脅かすケースも相次ぎました。

国立環境研究所の小野雅司総合影響評価研究室長によると、地球温暖化の進行により2040年には東京都内だけで熱中症患者数は最大5000人に達すると予測され、深刻化が懸念されます。

○豪雨や水害の危険

地球温暖化の影響で海面が1メートル上昇すると都市の沿岸部では水没の恐れがあります。東京では江東区、墨田区、江戸川区、葛飾区のほぼ全域が影響を受けることが予想されています。また、近年、夏になると1時間に10ミリ以上の強雨や50ミリを超える豪雨が増えています。

1947年のカスリーン台風を参考に、政府の中央防災会議専門調査会が温暖化の影響を考慮して出した試算では、3日間の降水量が680ミリに及ぶ大雨で荒川の堤防が決壊した場合、決壊地点によつては最大240万人の浸水被害や、銀座で深さ2メートルの浸水が想定されるほどです。

○夏の電力危機と温暖化加速

商業ビルなど建築物の増加は、ヒートアイランド現象を起こすだけでなく、空調利用とそれに伴う人工排熱も増やします。その先にあるのは、電力危機やさらなる温暖化危機。

昨夏は柏崎刈羽原発の全面停止に伴い電力供給も限界に達する危険性が叫ばれ、緊急時調整契約企業による工場停止など17年ぶりの需給調整の発動でなんとか乗り切りました。もはや「もしも電気が止まったら」という話も絵空事ではありません。

一方、化石燃料による発電量の増加は二酸化炭素(CO2)排出量を増やす結果となりました。また都心部の人口増と建築物増に対し、最先端のエネルギー技術だけではCO2排出を抑制しきれないのが現状。東京には温暖化対策やヒートアイランド対策に逆行する負のスパイラルが迫っています。